

# 助け合いの心で前へ



力強い声明を繰り広げる僧侶たち

福島では今、原発事故で多くの方が避難している。理不尽な状況の中、解決できない課題や悩みができた時は解決しようとせず、いったん横に置き、今やるべきことに集中する。後でゆっくり悩むようにすると悩みはなくなるが、小さく見えるようになる。

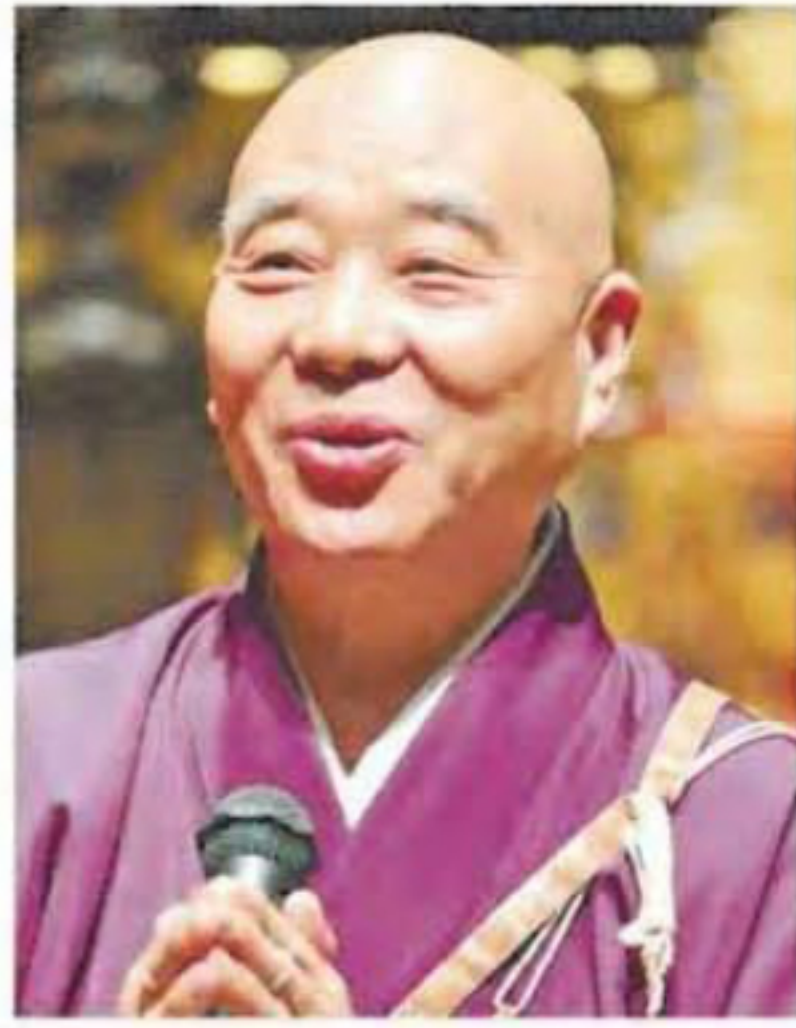
## 今やるべきことに集中

未来をおもんばかりに悩み苦しむより、今やらなくてはならないことをやりましょう。それが自分を大切にすることです。生きていく以上は精いっぱい生きなくてはならない。それこそが自分に命を与えてくれた人々への恩返しにもなるのではないかと。

## 坂東 真理子さん



## 山田 法胤さん



## 福島塾で法話や講演

福島民友新聞創刊120周年記念事業として福島市音楽堂で25日開かれた「薬師寺まほろば塾・福島塾」で、詰め掛けた約800人の来場者は、音楽性の高さから「僧侶たちの合唱」とも例えられる声明に聞き入るなど「まほろばの世界」を堪能した。

# 「福島をまほろばに」

【一面に本記】

「迫力ある光景に感動した。復興を願い前を向いていきたい」。声明を初めて

「まほろば」という言葉は古語。古語はおもしろい言葉が多い。育むも古語で、親鳥が卵をかえす時、大事に羽を組むところからきている。動物の母親の愛情と今の人間の育て方もずいぶん変わってしまった。鳥から学ぶことの方が多いかもかもしれない。

## 生きる人のために祈る

日本の音楽の源流は祈り、お経から来ている。お経は天や神、仏の偉なる力に訴えていくもの。訴えるは古語では歌うこと。若い人が恋を訴えると、恋の歌になる。お経には2種類あり、奈良の僧侶は生きていく人のために一生懸命お祈りしている。

聞いた福島市の教員高橋秀幸さん(37)は力を込めた。「東日本大震災復興祈願」薬師寺法要として行われた修二会声明、「導師供養文」「散華行道」など伝統作法に基づき、僧侶たちが読経した。僧侶たちはステージから観客席まで降り



て読経するなか、静と動がめまぐるしく入れ替わる迫力ある光景が繰り広げられてきた。復興への祈りを込め、来場者をくき付けにした。福島市の松本良子さん(78)は「力強さがあり見事だった。一日でも早く福島が元気になってほしい」と感動した様子だった。「まほろば」とは「素晴らしいところ」を意味する古語で、自然や伝統を重んじ、助け合いの心を持つことで「まほろば」が実現する

るとされる。「薬師寺まほろば塾」は、薬師寺の故高田好胤管長が提唱した、心のまほろばを大切にすることを継承する講演会で、各地で開かれている。郡山市の会社員西木勇人さん(53)は、震災当時の不安な生活を振り返り「今回は震災の追悼ができる」と聞いて来た。まほろばのような精神を大切にしたい」と語った。福島塾では、山田法胤管長は「まほろばの国づくり」をテーマに法話し、まほろばの大切さを説いた。山田管長らと交流があり、講師を務めた昭和女子大の坂東真理子理事長・学長は「これからの生き方」と題して講演した。また、1300年にわたり薬師寺で行われていた代表的行事「修二会声明」を披露した。「福島塾」は薬師寺、福島民友新聞社、読売新聞社の主催。薬師寺まほろば塾推進の会、福島中央テレビ、福島市仏教会の後援。

2015年(平成27年)

4月26日(日曜日)

旧暦3月8日 仏滅 三碧

# 福島民友

THE FUKUSHIMA MINYU



復興への願いを込め行われた修二会声明＝25日午後、福島市音楽堂

## 追悼の祈り 復興へ誓い

法相宗大本山薬師寺(奈良市)の故高田好胤管長が提唱した「心のまほろば」の大切さを説く講演会「薬師寺まほろば塾・福島塾」は25日、福島民友新聞創刊120周年記念事業として福島市音楽堂で開かれた。来場者約800人が東日本大震災の犠牲者に追悼の祈りをささげるとともに、復興への誓いを新たにしました。【25面に関連記事】

## 薬師寺まほろば塾・福島塾

また、1300年にわたり薬師寺で行われていた代表的行事「修二会声明」を披露した。「福島塾」は薬師寺、福島民友新聞社、読売新聞社の主催。薬師寺まほろば塾推進の会、福島中央テレビ、福島市仏教会の後援。